

## 平成 27 年度「支援機器等教材を活用した指導方法充実事業」成果報告書

団体名	徳島県
研究開始年度	平成26年度

### I 概要

#### 1 指定校の一覧

設置者	学校名	障害種
徳島県	徳島県立徳島視覚支援学校	視覚障がい
徳島県	徳島県立徳島聴覚支援学校	聴覚障がい

#### 2 研究テーマ

タブレットPCを活用した視覚障がい教育・聴覚障がい教育の指導力の向上と効果的な生活支援，地域支援の実践研究

#### 3 研究の概要

視覚障がい，聴覚障がいのある児童生徒等は，情報の獲得に難しさがあることから，障がいの状態や特性に応じた情報保障の支援が必要である。ICT活用に関する外部専門家と連携し，タブレットPCを学習場面及び生活場面で活用することにより，視覚障がい，聴覚障がいのある児童生徒等への効果的な情報保障や学習環境の向上を図ることを目指し，研究に取り組んだ。

平成 26 年度に整備した校内研究体制を継続し，徳島視覚支援学校での視覚障がい教育指導方法充実運営会議，徳島聴覚支援学校での聴覚障がい教育指導方法充実運営会議，両校合同での指導方法充実運営会議を年 2 回実施した。また，視覚障がい教育や聴覚障がい教育におけるタブレットPC活用の専門家や，機器の管理やデジタル教材作成における専門家による研修及び相談支援を定期的に実施し，教員のタブレットPCを活用した指導力の向上を図った。タブレットPC及び関連機器の配備やWi-Fi環境の整備等により，ICT環境の充実を図り，徳島視覚支援学校及び徳島聴覚支援学校で個々の児童生徒等の障がいの状態や特性に応じて，学習場面や生活場面でのタブレットPCを活用した指導実践を行い，活用事例を集積した。集積した活用事例を基に，校内データベースの構築を行うと共に，「タブレット端末活用実践事例集」を作成した。

特別支援学校のセンター的機能による地域の学校等への成果普及については，県内の弱視学級担当教員や難聴学級担当教員等を対象とした地域啓発研修会の開催や，取組の発表を行うと共に，「タブレット端末活用実践事例集」を県内の弱視学級や難聴学級のある小・中学校及び特別支援学校，全国の盲学校や聾学校に配付した。また，通級指導教室での指導や，巡回相談でタブレットPCを活用した。

#### 4 研究の成果及び課題

本事業での取組を通じ、視覚障がい、聴覚障がいのある児童生徒等に対し、タブレットPCの活用により、音声情報や視覚情報を中心として情報保障を行うことで、学習の理解が高まると共に、視聴覚教材を操作して活用することで主体的に学ぶことができ、授業への集中力や意欲の向上が図られた。また、生活場面での活用により、コミュニケーション力の円滑化を図ることができた。

外部専門家を活用した研修や相談支援により、教員はタブレットPC活用スキルを身につけ、アクセシビリティやアプリの活用を工夫することにより、指導内容を豊かにし、児童生徒等に合う指導方法を展開することができた。平成27年度は、アプリ評価や活用事例データベースの構築、デジタルコンテンツ作成指導、トラブル対応演習等についても、外部専門家の支援を受けて取り組んだ。また、外部専門家の具体的な助言を受けながら、タブレットPCを活用した公開授業や研究授業に取り組み、教員のタブレットPCを活用した指導スキルの向上を図ることができた。平成26年度より、活用実践を重ねてきたことで、教員全体の活用スキルが向上し、教員同士での情報交換や協議が行われるようになり、さらに効果的な活用につなげることができた。

無線ルーター配備によるインターネット接続環境や、テレビへのタブレットPCデータ送信環境の整備、教材データ転送による教材共有等により、タブレットPCの利活用を推進することができた。

徳島視覚支援学校の高等部生徒に対するタブレットPCを活用した指導実践では、アプリを活用し、適した大きさに文字を調整して資料等を見ることができ、書き込みを行うことができ、授業中の確認や授業後の復習が確実にできるようになり、学習の効率が高まった。さらに、アプリに書き込んだ学習内容をタブレットPCに保存し、家庭等での学習に利用したり、印刷して家庭学習で利用したりできるようになったことで、授業及び自己学習での学習効率が高まり、学力向上が図られた。

徳島聴覚支援学校では、児童生徒のICT活用スキルが向上し、調べ学習、プレゼンテーション資料の作成、発表等の学習活動にタブレットPCを積極的に活用し、学習効果をあげることができた。幼稚部では、タブレットPCとカメラを活用した振り返り活動やフラッシュカードアプリの活用により、言語の定着に効果をあげることができた。

徳島視覚支援学校と徳島聴覚支援学校が共有する保健室や寄宿舎では、音声情報と文字情報を互いに変換し合うアプリを活用した問診の実施や、タブレットPCを使ってプログラムや議事をテレビに提示する方法での寄宿舎の視覚・聴覚合同自治会の実施等により、聴覚情報や視覚情報の保障を行い、教員や指導員と児童生徒、また児童生徒同士のコミュニケーションの円滑化に効果をあげることができた。

このように、学習場面及び生活場面における活用事例を集積し、校内データベースの構築を行い、タブレットPCを活用した授業実践に役立てることができた。

地域の学校への成果の普及においては、県内の視覚障がいの児童生徒及びその保護者が参加するサマースクールやウインタースクールで、タブレットPCの体験を実施した。また、県内の弱視学級担当教員や難聴学級担当教員等を対象とし、外部講師を招聘した地域啓発研修会を実施した。教員だけでなくロービジョンケアに当たっている地域の福祉関係者等に対しても、研修や体験を通じて、タブレットPCの活用方法について学ぶ機会を作ることにより、タブレットPCの活用への関心を広めることができた。また、校外でタブレットPCの機能を十分に活用するために、学校独自のネットワークを持つことで、通級指導教室（サテライト教室）や巡回相談でのネットワーク利用

の環境が整い、効果的な活用ができるようになり、指導の効果をあげることができた。

徳島視覚支援学校、徳島聴覚支援学校の取組をまとめた「タブレット端末活用実践事例集」を発行し、地域の小・中学校及び特別支援学校、全国の盲学校や聾学校に配付したことで、タブレットPCを活用した効果的な実践についての情報を提供することができた。また、県下の特別支援学校で組織する「徳島県特別支援学校マルチメディア活用研究会」及び県内幼稚園、小学校、中学校、高等学校の教員や保護者を対象として、県全体での教育の取組を発表する場である「あわ（OUR）教育発表会」で、徳島視覚支援学校及び徳島聴覚支援学校の本事業における取組を発表し、成果の普及を行うことができた。

今後の課題として、次のことがあげられる。ICTに関する技術は常に進化しており、視覚障がい教育や聴覚障がい教育に有効なICT機器の活用についても、様々な取組が進められている。そのため、新しい技術や指導方法等について、常に研修や研究を続けていくことが大切である。また、導入した機器のメンテナンスを継続していくことも必要である。

アプリ評価データベースについては、内容を充実させ、有効に活用していくために、教職員に閲覧と登録を働きかけると共に、専門家の協力を得て、より使いやすいデータベースになるよう改良を重ねていきたい。そして、データベースの校内活用実績を積み、県内特別支援学校や地域の学校でもデータベースの情報を活用できるよう取組を進めていきたいと考えている。さらに、特別支援学校のセンター的機能により、取組の成果を地域の学校等に普及することにより、地域の学校に在籍する視覚障がい、聴覚障がいのある児童生徒の学力、コミュニケーション能力の向上を図ると共に、地域の学校における視覚障がい、聴覚障がいのある児童生徒に携わる教員の指導力向上につなげていきたい。

※徳島県では、「障害」を「障がい」と表記。